

# 時 報

第26卷第1號 昭和15年1月

## 京濱運河開鑿工事起工式

京濱運河開鑿事業は明治30年以來東京、神奈川兩府縣下に課せられた多年の懸案であつた。此の間京濱運河の使命は安全な航路の開鑿と言ふ域から更に重要性を加へ、運河添に臨港工場地帯を造成し、沿岸一帯を一大工業港たらしめんとする使命を課せられた。由來此の事業は其の事業區域に生産年額數百萬圓を算する淺草海苔の養殖漁場があり、之等漁業權の處置には非常な困難が伴つて容易に着工の運びに至らなかつた。併しながら躍進途上にある吾が重工業界が臨港工場地帯を得んとする熾烈なる要望と、關係漁業者の事業と時局に對する深き理解とに依り嘗て幾度か事業の實現を沮んだ諸種の難問題も逐次圓滿に解決せられ、工費2416萬圓の大事業は茲に愈々着工の運びに至つたのである。

10月19日快適な秋日和に恵まれ、品川區大井鮎洲の工事現場に於て盛大な起工式が舉行せられた。此の日東京府は此の大事業の着工を意義あらしむるべく、朝野の名士500餘名を招待し、午前10時荏原神社宮司の修祓に次いで、岡田府知事、吉岡土木部長、内林建設事務所長等の工事關係者及内務大臣、東京市長、府市會議長、港灣協會長其の他來賓の玉串奉奠並に式辭、祝辭の朗讀があり基石鎮奠の儀に移つた。基石鎮奠場は鮎洲海岸から100米沖合の新埋立地に設けられ、基石は斜路の上に安置せられた。宮司の修祓に次いで岡田府知事の銀斧秋光に一閃すると見るや基石は見事に斜路を滑走して護岸基礎上に鎮奠され目出度擧式を終つた。式後一同饗宴場に入場、府知事の挨拶、來賓總代港灣協會副會長松波博士の謝辭があり、一同聖壽萬歳を三唱して式を終つた(工事寫眞欄參照)。

(落合林吉)

## 常盤水力發電所起工式

日本發送電株式會社設立後第一期工事として兼山水力工事と共に逸早く着工した常盤水力工事の起工式は11月6日を書いて秋色の色濃き長野縣西筑摩郡三岳村大平場發電所敷地に於て内務省、電氣廳、長野縣、帝室林野局等の各官廳關係者並に縣會議員、地元關係者等を招き縣社御嶽神社宮司を齋主として嚴肅に舉行し

た。

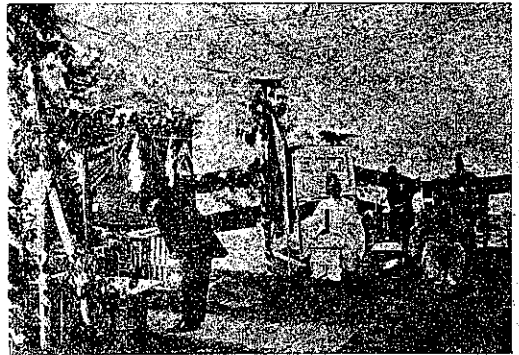
式後一同午餐會に臨み工事の成功を祈つて乾杯した。起工式次第を記すと次の如くである。

修祓、降神、獻饌、祝詞奏上、穿初めの神事  
玉串奉奠、撤饌、昇神

小野副總裁式辭、石川中部水力建設事務所長計畫説明  
來賓祝辭

内務大臣(代讀)、電氣廳長官(代讀)、長野縣知事  
(代讀) 帝室林野局木曾支局長、三岳村々長

圖-1. 常盤發電所起工式小野副總裁玉串奉奠



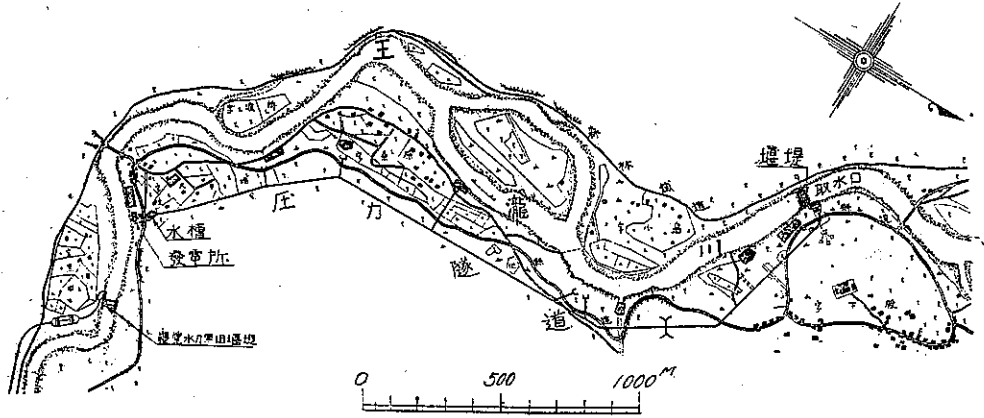
次に常盤水力發電所の概要を述べれば

本地點は元大同電力時代の計畫に係り日本發送電株式會社設立により之を繼承し去る6月着工した。

本計畫は木曾川支流王瀧川にコンクリート造重力堰堤を築造し、調整池を造り壓力隧道により導水し、2臺の水車及發電機により最大出力13400kWを發電せんとするものである。

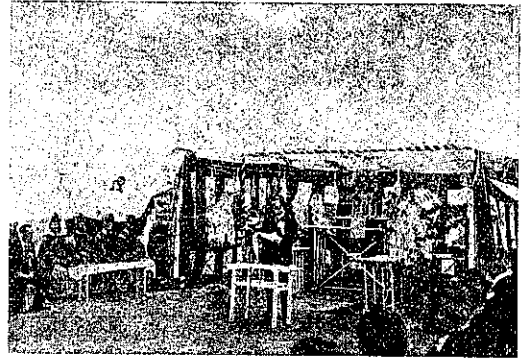
1. 使用河川 木曾川水系王瀧川
2. 位置 取入口 長野縣西筑摩郡三岳村下殿  
放水口 " 大平場
3. 使用水量  
最大使用時 44.50 立方米毎秒  
常時使用時 10.00 " (三浦貯水池完成前)  
22.50 " (" 完成後)
4. 有効落差 36.87 m
5. 發電力 最大 13400 kW
6. 堰堤  
基礎岩盤より満水面迄の高さ 25 m  
固定堰堤 下流面勾配 8分7厘 上流面勾配 1分

圖-2. 常盤水力計畫一般圖



- 敷幅最大 39 m 堤長 101 m  
 テンダーゲート 6門 高さ 7.8 m 幅 8.6 m  
 7. 壓力隧道 内徑 4.8 m (馬蹄形) 4.9 m (圓形)  
 互長 2750 m  
 8. 調壓水槽 單働溢流式 内徑 18 m 高さ 21.6 m  
 9. 水壓鐵管 内徑 3 m 2條 長さ 63.76 m  
 (高桑綱一郎)

圖-3. 兼山發電所起工式小野副總裁式辭



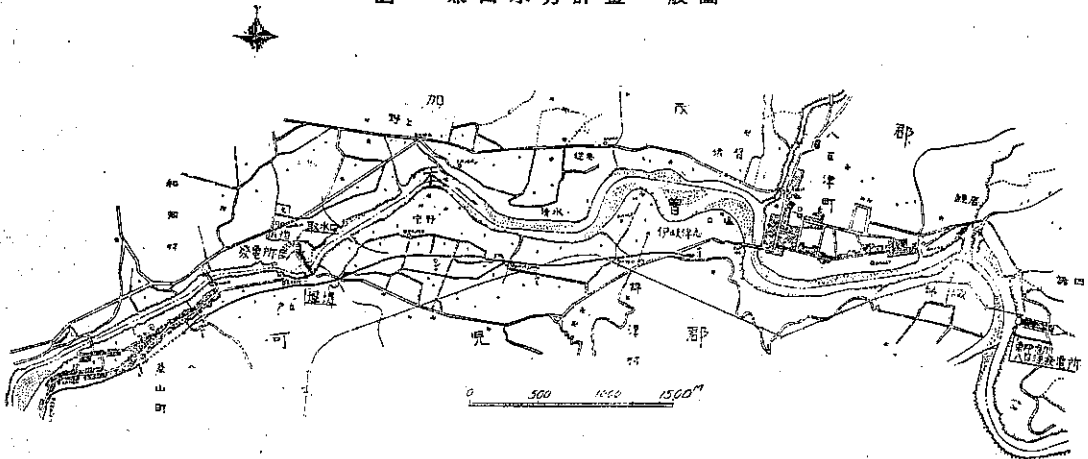
にふさはしい日であつた。式は内務大臣、電気廳長官各代理、岐阜縣知事、地元關係者等參列の下に先づ郷社貴船神社宮司の修祓より下記の順序に祭典を進め、

兼山水力發電所起工式

日本發送電株式會社設立後第一期工事として逸早く着工を見た兼山水力工事は工事の準備もやうやく整つたので 11月8日の大安吉日を卜し、起工式を岐阜縣賀茂郡和知村大字針田發電所敷地に於て時局にふさはしく簡略に舉行した。

當日は久振りに快晴に恵まれ工事の前途を祝福する

圖-4. 兼山水力計畫一般圖



小野副總裁の式辭、石川中部水力建設事務所長の計畫説明の後來賓祝辭に移つた。

式終了後別席の午餐會場に臨み午後1時目出度く會を閉じた。

聖戰で物資及勞力の不足は工事の前途多難を思はせるものがあるが所長始め所員一同はあくまで工事遂行に進せん事を誓つた。

起工式次第を記すと次の如くである。

修祓、降神、獻饌、祝詞奏上、穿初めの神事  
玉串奉奠、撤饌、昇神

副總裁式辭、中部水力建設事務所長計畫説明  
來賓祝辭

内務大臣(代讀)、電氣廳長官(代讀)、岐阜縣知事、  
兼山町長、和知村長、株式會社間組取締役社長  
兼山水力發電所の概要を述べれば

本地點は元大同電力株式會社のものであつたが發送電株式會社設立と共に之を繼承し今春着工の運びとなつた。

本發電計畫は木曾川本流にコンクリート造重力堰堤を築造し此の湛水池を調整池として利用し、右岸の取入口より取水し隧道式水壓管を経て發電所に導き3臺の水車發電機により最大 37 100 kW を發電せんとするものである。

1. 使用河川 木曾川本流
2. 位置 岐阜縣加茂郡和知村大字和知字針田(右岸)  
" 可兒郡兼山町字戸立 (左岸)
3. 使用水量 最大使用時 200 立方米毎秒  
常時使用時 37.56 "
4. 有効落差 22.18 m
5. 發電力 最大 37 100 kW
6. 堰堤  
基礎岩盤より満水面迄の高さ 28.5 m  
固定堰堤は下流面勾配 8分 6厘、上流面勾配 1分、  
堰幅最大 44 m、堤長 193 m  
ゲート 14 門 高さ 9 m、幅 11.3 m
7. 調整池 湛水量 8 692 000 m<sup>3</sup>  
有効容量 2 930 000 m<sup>3</sup>、利用水深 3 m
8. 隧道式水壓管  
鐵筋コンクリート造り 内徑 5.75 m 3 條  
(高桑綱一郎)

鹿兒島港修築計畫概要

本港は先に明治 33 年~38 年及大正 12 年~昭和 9 年の 2 回各繼續工事として施行し諸般の施設を整へ港の面目を一新し年額 90 萬噸の出入貨物を處理するの能力を備へたが、今次の日支事變以來出入貨物の輻輳

圖-5.



及船型増大の爲め荷役に支障を來す事渺からざるのみならず、港内水深淺く且つ幅員狹隘にして廣くも200mに過ぎず3000噸級以上の船舶は港外に碇泊し沖荷役に依らざるを得ぬ状態となつたので、その擴張は焦眉の急を告ぐるに至つた。

港の計畫に際して、その現勢及地域に鑑み諸設の事情を考慮し將來を豫想する事次の如くである。

(1) 出入最大船舶 現在迄に入港したる最大船舶は8000噸級船舶なるを以て近き將來本港に出入すべき最大船を10000噸船舶と想定す。

(2) 出入貨物總額 從來の出入貨物年總額を見るに過去10年間に約2倍、5年間に約2.3倍の急激なる増加を見たのであつて、今後滿洲支那及南洋貿易の發展、後方地帯の生産業並に工業の發展に伴ふ工場の勃興及交通關係による物資出入の増大を考慮し、其の出入年總額を200萬噸と豫定す。

(3) 位置の撰定 現港に隣る洲崎町地先より甲突川に至る間は水淺けれ共廣大なる海面より現港との連絡及市との交通も便利にして地方識者の所謂本港百年の大計を樹つに好適の地なるに鑑み、此の地を撰定し擴張工事を施行せんとするものである。

(4) 修築工事の規模 本港は將來大船舶の出入益々頻繁となるは明かであつて、地方の發展に伴ひ海上トラックの出入も亦益々増加すべき趨勢にあるが、先づ1萬噸級船舶に對して港内に繋留荷役し得る範圍に止め、直接海陸連絡施設は次期擴張計畫とし、本計畫にては接岸荷役施設は8000噸級以下とした。

(5) 工期及工費概算

工期は6ヶ年とする。

工費は693萬圓でこの内譯は次の如くである。

防波堤費	2180 m	1678 600 圓
岸壁費	—	946 000 圓

(編輯部)

岡山飛行場起工式

逓信省航空局飛行乗員養成所として曩に其の工事施行の委囑を受けたる岡山縣に於ては11月18日の大安吉日を選んで之れが起工式を岡山市福田地先藤田組干拓第三、五區地内に於て盛大に舉行した。

此の日稀れに見る秋晴れの快晴に逓信大臣代理(深川書記官)、航空局長官代理(糸川技師)其他軍部代表を初め各方面の來賓約300名を迎へて午前11時齋主見臨伊勢神社々司、司祭の嚴かなる修祓より始ま

圖-6. 祭主岡山縣知事玉串奉奠

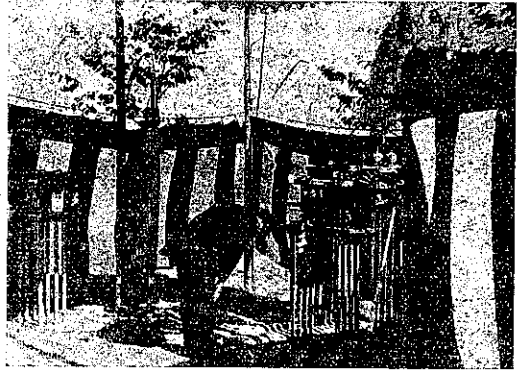
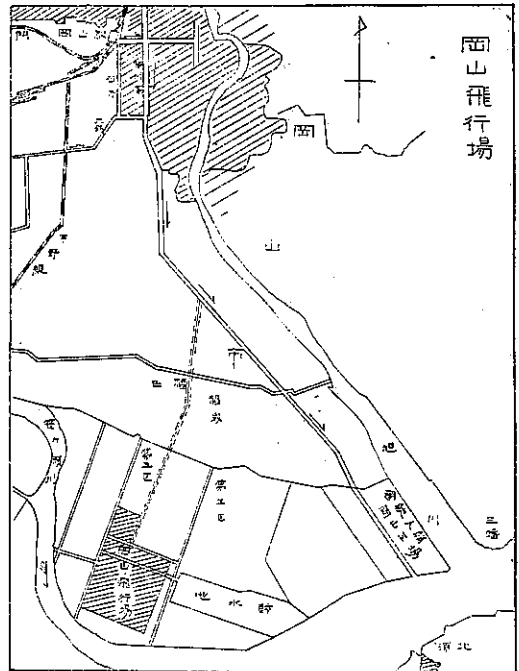


圖-7. 鈴木土木部長鋤入



圖-8. 岡山飛行場建設豫定地



り滞りなく祭典を終へ、次いで知事式事、逕信大官告辭、來賓祝辭の後式典を終了せり。此の間現地に於て知事代理鈴木土木部長によりて鉦入式を厳に施行せられた。式後一同は祝賀に移り極めて盛大裡に祝酒を乾杯して散會した。因みに岡山飛行場計畫概要を附記すれば

- (1) 面積 316 500 坪 飛行場敷地  
30 800 坪 乗員養成所敷地  
計 347 300 坪
- (2) 工事着手並に竣功予定年月日；着手 昭和 14 年 8 月 10 日、竣功 昭和 16 年 12 月 31 日
- (3) 工費 2 846 556 圓 整地費  
38 444 圓 附帶工事費  
130 000 圓 機械器具費  
105 000 圓 工事雜費  
2 820 000 圓 計

(編輯部)

### 大師橋竣功式

昭和 11 年 3 月着工、工費約 130 萬圓を以て東京、神奈川兩府縣折半負擔の下に鋭意工事の進捗に努めつつあつた大師橋は去る 11 月竣功したので、同月 15 日關係各官廳並に地元關係者 1 600 余名を招待して盛大なる竣功式を舉行した。

定刻午前 10 時を稍遅れ、10 時半式は開かれた。前日來の雨も全く晴れて、日本晴の好天氣、式場は超満員の内に次の次第を以て式は進行した。

- 1. 總員着席
- 1. 祭員着席 此間奏樂
- 1. 宮城遙拜
- 1. 皇軍將兵の武運長久祈願並に戦死傷病者に對する敬用のため黙禱
- 1. 開式の辭 神奈川縣土木部經理課長
- 1. 祭事
  - 修 祓 一同起立
  - 降 神 一同起立
  - 獻 饌 此間奏樂
  - 祝 詞 一同起立

圖-10. 大師橋側面



圖-11. 大師橋正面

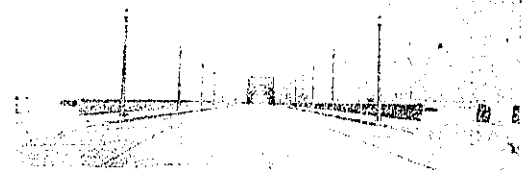
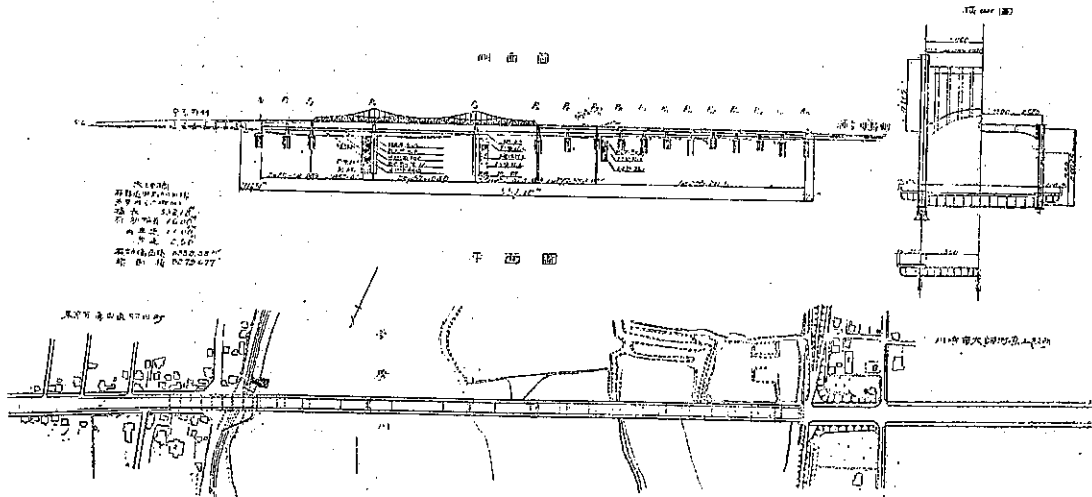


圖-9. 大師橋一般圖



拜 禮 玉串奉奠  
撤 饌 此間奏樂  
昇 神 一同起立

1. 祭員退席

- 1. 式 辭 神奈川縣知事列立  
東京府
- 1. 工事報告 神奈川縣土木部長
- 1. 告 祝 辭

内務大臣(土木局金子第二技術課長代), 大藏大臣(阪田地方積課長代), 神奈川縣會議長, 東京府會議長, 川崎市長, 東京市長(東京市今井土木局長代), 蒲田區長, 川崎市會議長, 東京市會議長, 兩府縣代選出貴衆兩院議員代表, 道路改良會長, 協賛會長, 來賓代表

1. 閉式の辭 東京府經理課長

閉式後協賛會長より大師橋下部請負人大林組並に鐵部請負人鶴見製鐵造船株式會社の各代表者に對し記念品の贈呈あつて, 神官, 神奈川縣知事, 三夫婦, 内務大臣, 大藏大臣, 神奈川縣土木部長, 東京府土木部長の順序にて渡橋に移る。

渡橋後別席に設けられたる宴會場にて協賛會の契應に接す。田中協賛會長の挨拶, 横濱市長の謝辭あつて盛會裡に豫定の行事を無事終了す。

本橋の落成を待つこと久しき地元關係者の喜びは絶大なるものがあり, 時節柄であつたが當日沿道は數町に互つて飾付を行ひ, 祝意を表した。

尙本橋の規模概要を示せば次の通りである。

路線名	府縣道大森大師河原線 (東京府側) 府縣道田島羽田線 (神奈川縣側)
位 置	東京市蒲田區羽田本町 入會 川崎市大師河原上殿町
河 川	多摩川(六郷川)
橋 長	553.68 m
有効幅員	16.00 m, 内車道 11.00 m, 歩道各 2.50 m
型 式	ゲルバー式鋼鈹桁橋 25.00 m 2 連 吊塔付ゲルバー式鋼構橋 228.80 m 内 中央徑間 104.00 m 1 連 側 徑 間 62.40 m 2 連 ゲルバー式鋼鈹桁橋 29.70 m 2 連 同 23.50 m 2 連
設計荷重	内務省規定第一種荷重
床 版	鐵筋コンクリート造
鋪 裝	車道 アスファルトコンクリート 歩道 セメントコンクリート
高 欄	壁體 鐵筋コンクリート, 笠石 花崗石

總工費 130 萬圓 1 平米當り 147 圓

工 期 着手 昭和 11 年 3 月  
竣功 昭和 14 年 10 月

(南保 賀)

奥入瀬川水系發電計畫並に  
十和田發電所地鎮祭狀況

青森縣南部, 奥羽山脈の北端なる十和田國立公園の中心なる中和田湖は, 其の面積 59.7 平方杆, 四季満々たる碧水を湛へて其の東端, 子ノロより東流する奥入瀬川に豊富なる水量を洗出す。この子ノロに制水門を築造して十和田湖の水位を 1.07 m 調節して使用し, 發電可能落差約 300 m を利用せむとするものにして, 總發電力約 50 000 kW を有す。

其の發電計畫は最上流地點の十和田發電所(出力 21 000 kW), 次に立石發電所(出力 7 100 kW), 流量發電所(出力 3 500 kW), 赤沼發電所(出力 3 580 kW)の 4 箇地點にして, 然かも使用後の河水は, 下流三本木原營開墾 2 500 町歩及既開發田約 3 000 町歩に互り官民(内務, 農林, 會社)一致協力して, 豊富なる灌溉用水を供給し, 眞に河水統制の好模範なる計畫なり。

而して前記立石發電所は本年 3 月竣工して發電を開始し, 其の發生電力は日東化學工業株式會社其他青森縣下の特殊需要者に供給を開始せり。

次に開發すべく目下準備工事中の發電所は, 本水系最上流の十和田發電所にして, 去る 10 月 10 日執行せる地鎮祭の狀況次の如し。

國立公園の紅楓映ゆる 10 月 10 日の吉日をとり, 十和田湖を利用して開發する工事を籌ぐ地鎮祭は, 官民多數臨席の下に, 非常時下簡粗とは言へ, いとも嚴肅裡に執行された。

この日天高く秋氣清爽, 舉式は午前 10 時諸員着席し, 修祓の儀式に始まり, 降神, 獻饌, 齋主祝詞奏上等神々しく進み, 次いで横山社長の鐵入行事等意義深き神事壯嚴に行はれ, 玉串奉奠は齋主に始まり, 横山社長, 各部課長, 金森東北興業副總裁, 宇都宮東北局長, 鈴木青森縣知事其他順次に行はれ, 次いで撤饌, 昇神の儀済み, これにて崇嚴裡に神事一切を終了した。

斯くて式終了後, 一同建設事務所の祝賀會場に臨み, 先づ社長挨拶の後, 來賓内務大臣代理, 逓信大臣代理, 東北局長, 青森縣知事, 秋田縣知事代理, 十和田村長及請負者代表諸氏の祝辭及八田前社長其他よりの祝電の披露ありて, 青森縣下に於ては稀有の盛事を展開

し、宴を開き一同歡喜の裡に青森縣知事の發辭にて、萬歳を三唱、乾盃して目出度閉會した。

因みに本水力工事の概要は次の如し。

取水口 青森縣上北郡十和田村大字奥瀬宇尻部山  
放水口 同宇尻久保  
使用水量 13.3 立方メートル毎秒  
有効落差 187.0 m  
發電力 21 200 kW  
工事資金總額 14 250 000 圓

(渡邊義道)

### 細島港修築工事竣功

去る 11 月 9 日細島港新埋立地に於て、同港修築工事の竣功式を舉行した。

此の日氣遣はれた夜來の豪雨もからりと霽れて、晩秋の氣澄み渡る絶好の日和に恵まれ、式は午前 10 時修祓、降神の儀に始まり、伊藤内務省下關土木出張所長、内務大臣代理黒田内務技師、古河細島港修築事務所長、長谷川宮崎縣知事其の他の玉串奉奠あり、昇神の儀に續いて出張所長式辭、内務大臣告辭、事務所長工事報告、知事其の他の祝辭があつて、嚴肅裡に式を終了し、正午より祝賀の宴に移つた。

抑も本工事は總工費 145 萬圓を以て、自昭和 7 年度至同 13 年度の 7 ヶ年繼續事業として内務省直轄のもとに工を起し、昭和 10 年 2 月計畫の一部を變更し、銳意工事の進捗に努めしも、偶々昭和 12 年 7 月支那事變勃發して國家非常の時局に遭遇し、財政の都合上豫算を繰延べ、工期を 1 ヶ年延長されるに至つた。

本港主要工事は岸壁、護岸物揚場及浮棧橋の築造と、浚渫並に埋立であつて、其の概要を述べれば次の通りである。

(1) 岸壁 水深 7.3 m 延長 230 m の繫船岸壁を築造せるものであつて、3 000 t 級汽船 2 隻を同時に接岸し得べく、本港に於ける最も重要な施設である。

その構造はコンクリート方塊積なるも、50 mm 鋼釘を用ひて控を取り、地震時に於ける安全を圖つた點は特異とする所である。

昭和 10 年 7 月着工、同 14 年 9 月完成、其の工費 234 000 餘圓。

(2) 護岸物揚場 小型汽船及帆船の繫留荷役に充てる爲 3.5 m 護岸 464.5 m (内斜面物揚場 165 m) 及 1.8 m 護岸 464 m (内斜面物揚場 236 m) を築造した。

鐵筋コンクリート L 型塊、同矢板及コンクリート方塊を使用せるものであつて、昭和 8 年 7 月着工、同 14 年 11 月完成、其の工費 275 000 餘圓。

(3) 浮棧橋 既設縣營浮棧橋の兩方約 150 m の箇所、長 23 m、幅 7.2 m、高 2.6 m の鐵筋コンクリート浮函 3 ヶを連結し、長 73 m の片棧橋 1 基を設置し、1 000 t 級汽船の舷側荷役並に船客の乗降に供せるものであつて、昭和 11 年 4 月着工、同 12 年 1 月完成、其の工費 20 000 餘圓。尤も浮函は曩に神戸土木出張所に於て製作し、不要に歸したものを流用せるもので、その價格は含んでゐない。

(4) 浚渫 岸壁前面を -7.3 m に、浮棧橋前面を -6.5 m に、その西方を -3.5 m 及 -1.8 m に浚渫し、在來締切堤の南端 100 m を掘鑿除去した。之等に依つて生じた總土量は約 800 000 m<sup>3</sup> であつて、内約 3 割を埋立に利用し、殘餘の土砂は港外約 3 km の地點に運搬投棄した。

昭和 8 年 4 月着手、同 15 年 1 月完成の豫定であつて、其の工費 276 000 餘圓の見込。

水深別浚渫面積を示せば表-1 の如し。

表-1.

水深	-7.3m	-6.5m	-3.5m	-1.8m	計
面積(m <sup>2</sup> )	102 000	46 800	24 700	57 700	231 200

(5) 埋立 前記岸壁及護岸の背部を埋立て、更に細島驛西方の濕地を地上げせるもので、その總面積約 87 000 m<sup>2</sup>、之に要した土量約 260 000 m<sup>3</sup> は専ら浚渫土砂を以て充當した。

昭和 8 年 4 月着手、同 14 年 3 月完成、其の工費 62 000 餘圓。

工事の概要は以上の通りであるが、時局の重大性愈々加はり、銃後の産業擴充、海外貿易の振興極めて緊要なる秋、之が竣功を見たのは、邦家の爲誠に慶賀に堪へない次第である。

本港の港勢は最近著しく進展し、目下出入貨物噸量及價額は夫々 50 萬噸、6 000 萬圓を示して居るが、修築工事茲に愈々完成し、今後陸上諸設備が完備したならば、何處迄躍進を續けるか、本港の將來實に洋々たるものあるを思ひ、一重に發展を祈ると共に、工事中に於ける官民各位の絶大なる御援助と従業者各位の不斷の努力に對し、滿腔の謝意を表して御筆する。

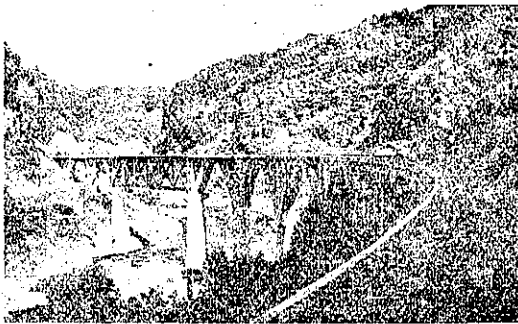
(古河順治)

## 日ノ影線全通

日ノ影線は日豊線延岡停車場より分岐し槇峰嶺山附近を経て九州の屋根と稱せられる山嶽地帯盆地の小邑、日ノ影に對する延長 37751 m 餘りの産業開發線である。

本線は延岡-日ノ影間鐵道として昭和 2 年第 52 議會の協賛を経て敷設確定を見、昭和 4 年 11 月より測量に着手し、この線路選定の終了を俟つて 7 年 10 月延岡方より工事に着手し、工事の竣功に伴ひその都度部分開通を行つた。而して本線の最終工事區間である槇峰-日ノ影間は 11 年 5 月に着工し、14 年 10 月に全工事の完成を見、茲にいよいよ日ノ影線全通の運びに至つたものである。最初の起工以來滿 7 年間の歳月を關し、その總工費 4,339,000 圓餘で、1 km 當り 114,500 圓を要してゐる。將來本線が延長されて九州中部を横斷し熊本縣との連絡握手を實現する時は、産業、國防力の充實に貢獻するところ更に偉大なるものがあらう。

圖-12. 日ノ影線第 3 五ヶ瀬川橋梁



本線は全線を 6 工區に分けて施行したが、そのうち網ノ瀬橋梁(拱橋)を直轄工事で施行したほかは全部請負工事で施行した。線路はおほむね五ヶ瀬川筋に沿ひ、山々の間を縫ひつゝ進むのであるが隧道は合計 13 本、橋梁は 41 ヶ所ある。

日ノ影線は東九州の新興工業都市として躍進目覚しい延岡市の工場の群立を車窓より展望し北進、直ちに左轉して國道に陸橋を架して進む。耕作された田園が左右に展げ、やがて小丘を切取り隧道をぬけて西延岡停車場に着く。延岡、高千穂線縣道に近く線路もこれに並進し緩く山裾を廻つて行勝(ムカバキ)停車場に入る。靈山として有名な行勝山の登山驛である。線路は新縣道に沿ひ、部落をすぎ細見川を渡つて日向両元停車場に入る。これより南に烏帽子山を望み五ヶ瀬川畔

を離れ、右曲して五ヶ瀬川の支流曾木川左岸に曾木停車場が設けられてある。停車場を出ると鐵筋コンクリート橋で曾木川を一瞬に通過し、喘ぎながら南久保山丘陵の小さい隧道を出ると五ヶ瀬川の明るい風光が目新しい。また縣道を高架横斷して川水流停車場が建つてゐる。こゝで最初の五ヶ瀬川横斷をなし線路は左岸に移つて走る。山は漸く深い、二、三部落を過ぎて早日渡停車場がある。布引龍に近く連日峯(二子山)が仰がれる、點々たる部落を透迎して隧道に入り再び五ヶ瀬川を横斷する。左の川は急流で右の山は高く迫つてゐる。その間を縣道が無理に挟つてゐる。線路はその縣道と川との間を並進または縫ふて進むのであるが或は護岸工事を施し或は橋梁を設けて蜿蜒と構築されてゐる網ノ瀬橋梁(拱橋)の壯觀にその建造美に恍惚としてゐる間に槇峰停車場につく、こゝから線路は開業新線である。線路は相變らず五ヶ瀬、縣道間の窮窟な間を自然を加工して進み、遂に縣道下を隧道でぬけ、山端により迂曲して日向八戸停車場に入る。もう殆ど上り一方の片勾配がつづく、左轉縣道、五ヶ瀬川を横斷して走り橋梁と棧橋と保護工が多い。隧道を出ると水た、聳立する山と、奔流し岩に碎ける水は蒼い。悠遠たる大自然の無限をおもふ、四たび線路は五ヶ瀬川を渡り山峽の川と縣道を窓外左右に眺め日ノ影停車場に至る。本線の終端驛である。

久遠の聖地高千穂の玄關驛である。

沿線は農、林、礦、畜産等天然資源に富み、その開發を待つてゐる。  
(齋藤秀雄)

## 女川線開通

女川線は松島-石巻-女川間鐵道の一部にして石巻線石巻停車場を起點として女川に至る延長 16980 m 餘りの産業開發線である。

本線は石巻-女川間鐵道として昭和 11 年 2 月石巻方より工事に着手し、14 年 10 月に全工事の完成をみ、茲に女川線全通の運びに至つたものである。最初の起工以來滿 3 年 8 ヶ月を關し、その總工費 1,635,000 圓餘を要してゐる。

本線路は既設石巻停車場をでて市街の北端を過ぎ右轉東進して北上川橋梁を渡るのであるが、石巻驛南方 1 km の所に名勝日和山公園がある。標高 60 m にて脚下に北上川の清流注ぐ河口を俯瞰し左右の長汀、金色の砂濱、紺碧一色の石巻灣を彼方に望み、その眺望



圖-13. 女川線北上川橋梁の遠望

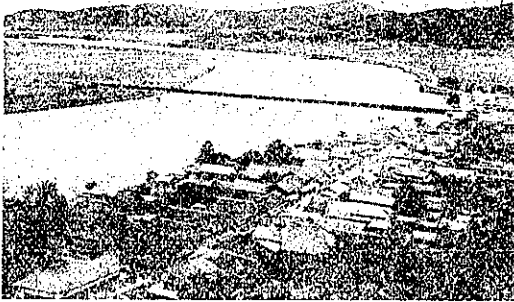
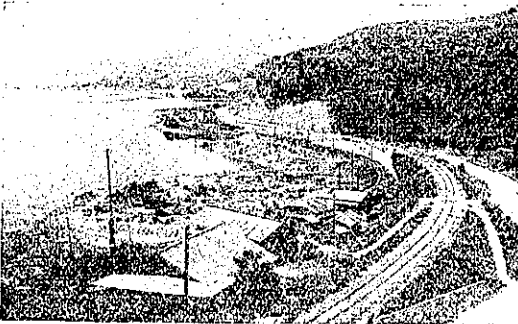


圖-14. 女川線萬石浦附近の線路



の雄大なること筆舌につくし難し、尙山上は葛西氏の居城にして満山櫻樹、躑躅、牡丹等四季の景趣に富み遊覧客の目を樂ましむる。橋梁を渡り宮城縣牡鹿郡稻井村に入り同村大字井内に陸前稻井停車場(簡易驛)を設け、村道と並行して進み字磯田の山裾に沿ひ右曲して同郡渡波町に入り大和田隧道を齧ち耕圃を進み左折し大字根岸に渡波停車場を設置してある。渡波驛南方1 km に長濱海水浴場があり、渺茫たる太平洋に臨み白砂青松遠く連り東北隨一の海水浴場として夙に其の名高く、浴客は逐年増加の趨勢にある。また東方1 km に渡波鹽田あり入濱鹽田の濶嶋にして今を去る300年前伊達政宗公の寛永8年に菊地與右衛門と言ふ者藩廳に請ひて45町歩の鹽田を創設せられ今日に及ぶと言ふ。また東方500 m にある萬石浦は、古には奥の海と稱し波靜かにして、海苔、牡蠣を産する外四季の釣船遊に好適地なり。それより金華山軌道に沿ひ右轉して大字澤田に至り澤田停車場(簡易驛)を設け、更に金華山軌道と並行して萬石浦沿岸を紆餘漸進し女川町に至り縣道と立體交叉し左轉して女川隧道を貫き同町街區の北端大字女川濱に女川停車場を設置して終る。女川灣は三面山を繞らし灣内は水深く裕に1萬噸級の船舶を碇繋し得る天恵の良港にして灣外は所謂世界三大

漁場の一たる金華山沖を控へてゐる。金華山は女川驛南方20 kmの海上にあり周圍20 km 高峰450 mの千古斧鉞を入れざる深山にして野猿群棲し眞に仙境の感あり、山頂の眺望と景觀は實に雄大にして古來より東海の蓬萊島と激賞せられ山腹の縣社黄金山神社鎮座し參詣、探勝客は逐年夥しい。江の島うみねこは女川驛東南海上20 kmにあり、海猫の蕃殖地として天然記念物に指定せられ毎年5月産卵期に至れば大群飛翔し爲に赤日天を覆ふ壯觀を呈すと云はれてゐる。

沿線の主なる物産は鮮魚、魚肥、米、鹽、木材、石材などである。(鴛藤秀雄)

### 港灣協會第12回通常總會

昨年東京に於て開催の後を受けて今秋は大連に於て開かれる豫定のところ、ノモンハン事件並に歐洲戰亂の餘波を受けて總會後の視察旅行が不可能となり、去る10月31日再び東京丸の内帝國鐵道協會に於て開催されることとなつた。

以下當日の模様を略記することとする。

定刻午前9時會員並に來賓着席、雜壇の上には會長水野鍊太郎博士を始め副會長松波仁一郎、中川吉造兩博士、理事內務省土木局長山崎淑氏等の御歴々が並ぶ。又幹事內務省港灣課長高橋庸彌、第一技術課長高橋嘉一郎、第二技術課長金子源一郎の諸氏の顔も見える。全國よりの會員參會者釧路市長佐藤國司氏外800餘名、その他多數の來賓の參會あつて會場は滿員の盛況である。一同の宮城遙拜、默禱に續き、幹事の開會の辭、水野會長挨拶、昭和13年4月1日より同14年3月31日に至る過去1ヶ年間の會務報告並に會計報告が簡單にあつて、當日の議事に入る。先づ第1號議案「釧路港に於ける内港區域擴張施設方を政府に建議するの件」を釧路市長より説明あり、以下逐條審議を重ね、第44號議案「大連港の設備擴充に關し當局に建議するの件」までにて既に正午近くなつたので、第45號「室蘭港外百間瀬に燈臺又は柱燈浮標設置方を政府に建議するの件」以下第169號議案「雄基港擴築計畫を急速實現せられむことを當局に建議するの件」の一括上提可決した。終つて水野會長より議事終了に關聯して本日の各種建議案の達成に邁進すべき旨挨拶あり、正午閉會。

續いて水野會長招待の午餐會が催された。本年は昨年の様は港灣施設視察、觀劇會の如き催しは無かつた

が、希望者に對して 31 日、1 日の兩日に互り東日天文館觀覽の便宜が計られた。(南保 賀)

### 都市計畫關係決定事項 (10, 11 月分)

10 月分：—

**市制：**市制第 3 條及町村制第 3 條により昭和 14 年 11 月 3 日より山口縣都濃郡下松町、久保村、末武南村及花岡村を廢し下松市を置く。同じく同日より千葉縣安房郡館山北條町、那古町及船形町を廢し其の區域を以て館山市を置く。

1. 市街地建築物法適用：香川縣三豐郡豐濱町の一部、大分縣大分郡鶴崎町の一部、宮崎縣南那珂郡吾田村の一部、三重縣三重郡楠村、同縣同郡日永村の一部、同常盤村の一部、同、河原田村の一部(何れも市街地建築物法施行規則第 149 條の 2 の規定により)。

2. 都市計畫法適用：大分縣宇佐郡柳ヶ浦村、山梨縣北巨摩郡韭崎町(奇勝の地にして人口密度高く、近接町村の政治、産業、教育の中心地)、宮崎縣北鹿郡鮎川村(各種水産業盛んにして殊に本村は本邦屈指の捕鯨事業地なり、又本村の金華山は絶勝の地なり)。

3. 都市計畫區域決定：柳ヶ浦都市計畫區域(大分縣宇佐郡柳ヶ浦村の區域)、鮎川都市計畫區域(宮崎縣北鹿郡鮎川村の區域)何れも都市計畫法第 2 條第 1 項により。

4. 都市計畫の決定：**街路** 大阪府高石都市計畫街路(6 線、延長 4.824 km、工費概算 1 789 629 圓)、大阪府岸和田都市計畫街路(27 線、延長 54.782 km、工費概算 11 801 094 圓)。

**公園及風致地區** 高石都市計畫公園並に風致地區(新公園 4.80 ha、鳳濱公園 0.69 ha、高師濱公園 0.83 ha、信濃池公園 4.35 ha、高石風致地區 102.80 ha) 岸和田都市計畫公園及風致地區(18 公園 266.98 ha、14 風致地區 1 327.30 ha)。

5. 事業の決定：**公園** 名古屋都市計畫公園事業(第 1 號公園、面積 11.2 ha、事業費 277 300 圓、昭和 14、15 年度、市長執行)、京都都市計畫公園事業(大宮公園 1.58 ha、吉祥院公園 3.30 ha、殿田公園 1.77 ha、事業費 459 350 圓、昭和 14 年度、市長執行)。

6. 區劃整理組合の認可：福井都市計畫區域内小山谷(面積 3.914 ha、整理費 9 550 圓) 名古屋市中野本郷(62.434 ha 整理費 450 000 圓)。

11 月分：—

**市制：**市制第 3 條及町村制第 3 條に依り昭和 14 年 11 月 3 日より神奈川縣鎌倉郡鎌倉町及腰越町を廢し鎌倉市を置く。

1. 市街地建築物法適用：宮崎縣北鹿郡鮎川村大字鮎川濱の一部、廣島縣安藝郡府中町、同郡船越町、同郡海田市町、岐阜縣土岐郡土岐津町、同郡泉町の一部、山口縣玖珂郡川下村、埼玉縣北足立郡大宮町、静岡県熱海市、同縣周智郡森町、同縣磐田郡見付町(何れも市街地建築物法施行規則第 149 條の規定に依り指定す)。

2. 都市計畫法適用：新潟縣刈羽郡柏崎町(信越、越後兩鐵道線の連絡交通の要衝にして又重要商工業都市)、和歌山縣伊都郡高野口町。

3. 都市計畫決定：**街路** 三重縣宇治山田都市計畫街路(13 路線、工費概算 6 624 992 圓)、千葉縣木更津都市計畫街路(16 路線、延長 20.821 km、工費概算 2 803 350 圓)、静岡県新居都市計畫街路(8 路線、延長 8.43 km、工費概算 443 000 圓)。**土地區劃整理** 神奈川縣上溝都市計畫相模原區劃整理(整理面積 598.38 ha)。**公園** 三重縣宇治山田都市計畫公園(第 1 號公園、面積 71.95 ha)、静岡県新居都市計畫公園(西山公園 8.26 ha、新居辨天公園 4.42 ha)。**風致地區** 新居風致地區(源太山 6.25 ha、濱名川 5.08 ha、新居濱 60.47 ha、松山 27.71 ha、天神山 7.47 ha、西川 11.23 ha、夫當山 11.99 ha、辨天島 14.52 ha、新居辨天 78.79 ha)。

4. 都市計畫事業の決定：**街路** 千葉縣野田都市計畫街路事業(I. 小. 1 號、延長 0.284 km、事業費 17 500 圓、昭和 14 年度町長執行)、宮崎縣延岡都市計畫街路事業(II. 1. 1 號、延長 2.168 km、事業費 254 000 圓、昭和 14、15 年度市長執行)、廣島縣府中都市計畫街路事業(II. 3. 1 號及 I. 小. 1 號、延長 0.309 km、事業費 32 937 圓、昭和 14~16 年度町長執行)埼玉縣川口都市計畫街路事業(II. 2. 1 號及 II. 2. 3 號、延長 0.912 km、事業費 440 990 圓、昭和 14~17 年度市長執行)。**下水道** 川口都市計畫下水道事業(第 1 區排水面積 55.07 ha、第 2 區排水面積 14.56 ha、第 3 區排水面積 35.25 ha、第 4 區排水面積 91.08 ha、事業費 2 953 000 圓、昭和 14~18 年度市長執行)。

5. 區劃整理組合の認可：岐阜縣土岐郡土岐津都市計畫區域内 大泉(整理面積 170.88 ha、整理費 105 000 圓) 宮崎縣高鍋町紋口浦第 1(整理面積 8.88 ha、整理費 50 000 圓) 岐阜縣厚見(整理面積 123.54

ha, 整理費 67 000 圓)。

(廣瀬可一)

### 日本道路技術協會記事

久しく鳴りを鎮めてゐた東京事業部では去る 11 月 21 日全國舗装同業聯合會との協同主催の下に飛行場舗装に關する座談會を丸ノ内中央亭に開催した。

劈頭谷口會長の挨拶あつて、東京市土木局技術長堀信一氏座長の下に座談を進めた。集る者内務省土木試験所長藤井眞透氏、土木局第二技術課長金子源一郎氏、逓信省航空局建設課長末森猛夫氏、東京市道路建設課長山本亨氏、東京飛行場長福土剛氏等 100 餘名參加、先づ末森氏より飛行區域の概念について説明あり、福

士氏、山本氏、日本舗道會社技師森豐吉氏、藤井氏、其他の陸海軍航空關係官、日本航空會社航空士等の専門的意見の開陳あつて、一應民間飛行場の滑走路の使命、効果、滑走路舗装の實例、外國に於ける實例、滑走路舗装の維持等についての概念を得たる後、一般質疑應答に入り、午後 9 時半全國舗装同業聯合會會長淺利三郎氏の謝辭あつて盛會裡に會合を終了した。尙閉會に際し内務省土木試験所技師西川榮三氏より日本道路技術協會幹事の立場より、目下同會に於て飛行場舗装標準示方書を作成すべく成案を急いで居る次第につき當日の參會者各位に協力を乞ふ旨の依頼があつた。

(南保 賀)